

研究ノート

# 介護福祉士ファーストステップ研修における ガイドラインの課題抽出とその改善に関する研究

## 介護福祉士養成課程の カリキュラム改正に伴う文献からの検討 -

牛 田 篤

### 要旨

本研究の目的は、介護福祉士ファーストステップ研修におけるガイドラインの課題抽出とその改善に関して検討することである。その際、本研究では、2019（平成31）年度より順次導入された介護福祉士養成課程のカリキュラム改正（以後、カリキュラム改正）に伴う文献からの検討を行った。本結果から、現行の介護福祉士ファーストステップ研修のガイドラインでは、カリキュラム改正に十分に対応できていなかった。課題として、多様な介護職の中核的な役割という観点から、チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、介護過程の実践力の向上、認知症ケアの実践力の向上、介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上を踏まえているか、再検討する必要がある。そして、求められる介護福祉士像10項目、さらに高い倫理性の内容を踏まえているか、現行のガイドラインを見直し、具体的に追加する必要性が高いことが明らかとなった。

また、本研究から介護福祉士ファーストステップ研修は、現行のガイドラインのように自由度の高い記載ではなく、各都道府県介護福祉士会等で開催するからこそ、今後の科目では内容と科目を見直す必要性が示唆された。厚生労働省の報告書等の動向から、「外国人介護従事者に関する知識とコミュニケーション技術（仮称）」「チームマネジメント能力を養うためのコミュニケーション技術（仮称）」「介護過程の展開を活用したケア場面と指導方法（仮称）」「地域包括ケア・地域共生社会に関するケア場面での気づきと助言（仮称）」「ICTや介護ロボットを活用したケア場

面での気づきと助言（仮称）」等、具体的にガイドラインの科目名を見直すことも、今後の課題改善として重要と考える。

キーワード：介護福祉士ファーストステップ研修 介護福祉士養成課程  
カリキュラム改正 求められる介護福祉士像 チームマネジメント

## 研究の背景と目的

厚生労働省の資料「福祉・介護人材の確保に向けた取組について」（2018）<sup>注1</sup>では、日本における介護人材の不足という深刻な課題について、1. 介護人材の状況、2. 介護人材の必要数と介護人材確保対策、3. 介護分野における外国人の受入れ、4. 介護人材の機能分化と介護福祉士への期待という観点から報告している。そして、近年の介護現場では、多様な介護人材の確保を進めるからこそ、介護人材の構造は多様化が進んでいる実態がある。その構造の中で、介護福祉士は介護職の中核的存在や、リーダー的存在としての実践力が期待されている。

前述の状況に関連し、第13回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会において2018（平成30）年2月15日の介護福祉士養成課程のカリキュラム改正について、チームマネジメントや、リーダーシップ、フォローアップ等を養成教育するといった案が検討された。その後、介護福祉士養成課程は2019年度以降段階に4年制大学から導入されている。

また、日本介護福祉士会では、生涯研修体系のキャリア形成に関する研修について、図1の通り、介護福祉士基本研修、介護福祉士ファーストステップ研修（以後、ファーストステップ研修）<sup>注2</sup>、認定介護福祉士研修を位置づけて受講推奨している。一方、先の3つの研修について、小規模のチームのリーダー養成を目的としている研修として、ファーストステップ研修を位置づけているが、2009年度以降の実施からガイドラインは改正

されていない。そこで、本研究の目的は、ファーストステップ研修のガイドラインに関する課題抽出とその改善に向けた検討を行う。その際、介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に伴う文献から検討し、ガイドラインの見直しに関して考察する。

本研究では、介護福祉士と介護職の用語を区別して使用する。介護福祉士の専門性は、図2の通りである。そして、日本介護福祉士会では、図3の通り、介護福祉士であれば獲得していること、介護職であれば獲得していることには差異があることを明示している<sup>注3</sup>。

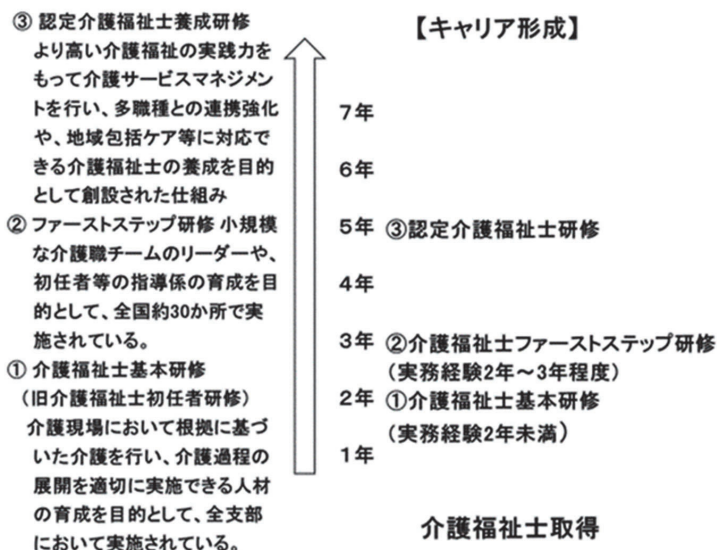


図1 日本介護福祉士会生涯研修体系におけるキャリア形成に関する研修の全体像  
出典 厚生労働省『介護人材における介護福祉士の役割に係る意見書』第7回社会  
保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2016年11月14日参考資料2  
(公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也)に基づき、筆者作成。

## 介護福祉士の専門性

### 介護福祉士の専門性とは

「利用者の生活をより良い方向へ変化させるために、根拠に基づいた介護の実践とともに環境を整備することができること」

1

介護過程の  
展開による根  
拠に基づいた  
介護実践

利用者の自立に向けた介護過程を展開し、根拠に基づいた質の高い介護を実践する。

2

指導・育成

自ら介護等に関する知識及び技能の向上に努めるだけでなく、自立支援に向けた介護技術等、具体的な指導・助言を行う。

3

環境の整備  
多職種連携

利用者の心身その他の状況に応じて、福祉サービス等が総合的かつ適切に提供されるよう、物的・人的・制度的等、様々な環境整備を行うとともに、福祉サービス関係者等との連携を保たなければならない。

図2 日本介護福祉士会の示す介護福祉士の専門性  
出典 日本介護福祉士会ホームページより引用 2021年8月15日  
<http://www.jaccw.or.jp/fukushishi/senmon.php>

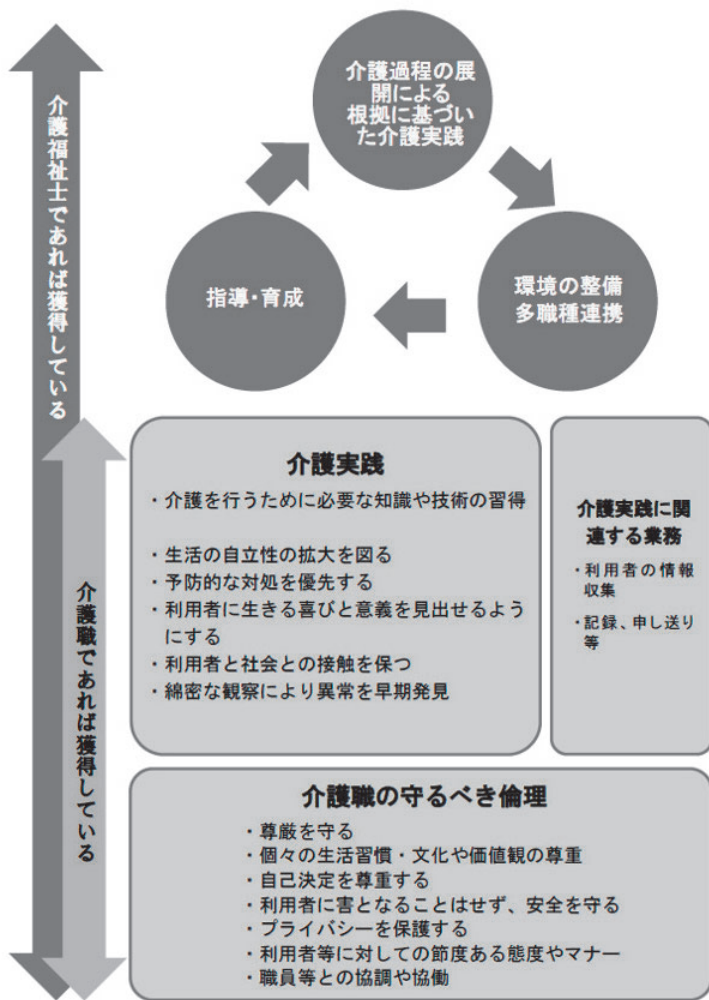


図3 日本介護福祉士会の示す介護福祉士と介護職との獲得の差異

出典 日本介護福祉士会ホームページより引用 2021年8月15日

<http://www.jaccw.or.jp/fukushishi/senmon.php>

## 研究の方法

### 1 対象

本研究では、介護福祉士ファーストステップ研修に関する論文、書籍、資料を分析対象とする。

### 2 調査方法

#### 1 調査手順

論文検索サイトの国立情報学研究所学術情報ナビゲータ及び医中誌にて、「介護福祉士」及び「ファーストステップ研修」の2語、そして「介護福祉士養成課程」及び「見直し」の2語に関して、論文を検索し、本研究の基礎的な資料とする。

国立国会図書館 蔵書検索・サーチ・デジタルコレクションにて、「介護福祉士」及び「ファーストステップ研修」の2語、そして「介護福祉士養成課程」及び「見直し」の2語に関して検索し、分析対象とする。

に加えて、日本介護福祉士会のホームページから、出版または、編集書籍を検索し、本研究の基礎的な資料とする。

から の手順を行い、その結果を検討することによって、本研究における分析対象を選定し、文献検討を行う。

文献及び資料に関する検討の結果から、質的に分析しながら考察する。

### 3 調査期間

2021年3月1日～2021年3月31日

#### 4 調査内容

「介護福祉士」及び「ファーストステップ研修」の2語、そして「介護福祉士養成課程」及び「見直し」に関する文献、資料を調査する。

#### 5 倫理的配慮

本研究は、人を対象とした研究でなく、人を対象とした臨床研究における倫理的配慮は必要としない。本研究は、文献検討しながら、質的に分析し、考察するため、倫理審査委員会の承認を得た後、研究を開始する研究ではない。

#### 6 分析方法

本研究では、対象となった書籍について文献検討し、質的に分析を行う。

### 結果

本結果から、「介護福祉士ファーストステップ研修」に該当した論文は7件あり、書籍が1冊であった。資料は、全国社会福祉協議会のガイドライン等があった。ファーストステップ研修に関する論文や書籍から、ファーストステップ研修の受講について、その必要性や重要性が述べられていた。その際、介護職の小規模リーダーとして介護福祉士に求められている知識や能力、求められる介護福祉士像の変化、認定介護福祉士を視野に入れたキャリア形成研修としての課題や在り方などが論述されていた。現行のファーストステップ研修は、既に課題が生じていることも論述されていた。また、「介護福祉士養成課程」「見直し」に関しては、該当する論文は表1の通り3件あり、書籍が0冊であった。また、中央省庁の公式ホームページを調べた結果、介護福祉士養成課程の見直しに関する資料は、厚生労働省資料の「介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」（2019）<sup>注4</sup> や、「介護

福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書<sup>注5</sup>については、現行のファーストステップ研修ガイドラインを改善する際に、本研究の考察に用いる資料といえる内容であった。

「介護福祉士養成校課程」「見直し」に関する論文では、カリキュラム改正に伴う チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、介護過程の実践力の向上、認知症ケアの実践力の向上、介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上が重要な観点となっていた。さらに、表2の通り、求められる介護福祉士像10項目及び高い倫理の保持に関する教育が必要であることが示されていた。また近年の介護福祉士養成では、多様なアジアからの留学生の増加に関して、教授方法の検討がなされている状況であった。

ファーストステップ研修の科目について、ガイドラインでは、表2の通り、事前事後課題を含めて全12科目200時間であった（研修時間のうち100時間を自職場等課題、通信学習で実施することができる）。全12科目について、第1領域（ケア）4科目、第2領域（連携）3科目、第3領域（運営管理基礎）5科目から構成されていた。

第1領域（ケア）では、「利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開」16時間、「介護職の倫理の実践的理解と展開」16時間、「コミュニケーション技術の応用的な展開」16時間、「コミュニケーション技術の応用的な展開」16時間、「ケア場面での気づきと助言」24時間を2日間で開講していた<sup>注6</sup>。

次に第2領域（連携）では、「家族や地域の支援力の活用と強化」16時間、「職種間連携の実践的展開」16時間、「観察・記録的的確性とチームケアへの展開」16時間であった。

そして第3領域（運営管理基礎）では、「チームのまとめ役としてのリーダーシップ」16時間、「セーフティマネジメント」16時間、「問題解決のための思考法」16時間、「介護職の健康・ストレスの管理」16時間、「自



職場の分析」16時間であった。

各都道府県介護福祉士会の公式ホームページから、「総合評価」16時間を設けて開講している状況が複数あった。ファーストステップ研修の開催について、第1領域の「コミュニケーション技術の応用的な展開1」と「コミュニケーション技術の応用的な展開2」や、「ケア場面での気づき1」と「ケア現場での気づき2」は、1科目ではあるが、時間数等の観点から全12科目を15日間程度で構成する状況であった<sup>注7</sup>。

そしてガイドラインにおける構成および各科目の目的については、表4、表5、表6、表7の通りであった。

そのためファーストステップ研修の開催に向けた申請は、ガイドラインに基づき、日本介護福祉士会宛に、開催要綱、実施計画書（様式1）、科目シラバス（様式2）、主担当講師の教育活動歴（様式3）を提出して実施していた。その際、ガイドラインに基づき、各都道府県介護福祉士会を中心に15日程度で実施していた。一方、各都道府県介護福祉士会の公式ホームページ及び募集要項から、各講師の業績、教授方法、使用する教材等は異なっていた。

表1 本研究の文献検討に該当した介護福祉士養成課程カリキュラム見直しに関する原著論文リスト<sup>注8</sup>

著者（発行年）	原著論文のタイトル
綿貫 恵子、 戸田 京子（2021）	「介護福祉士養成課程カリキュラム改正に伴う検討 - 本校のカリキュラムの見直し」鶴見大学紀要、第3部、保育・歯科衛生編、58号、pp67-75
久田 貴幸（2020）	「介護福祉士養成課程の教育内容見直しプロセスに関する分析 福祉人材確保専門委員会報告書のテキストマイニング分析を中心に」長崎国際大学社会福祉学会研究紀要、16号、pp9-21
長谷川 美貴子、 藤澤 雅子（2019）	「介護福祉士養成課程における本学の教育プログラムの構築」淑徳大学短期大学部研究紀要、59巻、pp1-42

表2 介護福祉士養成課程カリキュラム改正に伴う求められる  
介護福祉士像 10 項目 + 高い倫理性の保持<sup>注9</sup>

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う
+
高い倫理性の保持

表3 介護福祉士ファーストステップ研修カリキュラム（計：200 時間）<sup>注10</sup>

領域(合計時間数)	科目	時間数
ケア領域 (72時間)	利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開	16
	介護職の倫理の実践的理解と展開	16
	コミュニケーション技術の応用的な展開	16
	ケア場面での気づきと助言	24
連携領域 (48時間)	家族や地域の支援力の活用と強化	16
	職種間連携の実践的展開	16
	観察・記録の的確性とチームケアへの展開	16
運営管理基礎領域 (80時間)	チームのまとめ役としてのリーダーシップ	16
	セーフティマネジメント	16
	問題解決のための思考法	16
	介護職の健康・ストレスの管理	16
	自職場の分析	16

表4 小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン～研修の企画、展開の指針の構成<sup>注11</sup>

はじめに
「介護福祉士ファーストステップ研修」ガイドラインの作成目的と構成
「介護福祉士ファーストステップ研修」の実施枠組み
1 「介護福祉士ファーストステップ研修」の概要
2 研修の内容について
3 自職場等課題、通信学習について
4 修了評価について
5 講師・設備・教材等について
6 研修の実施時間・実施形態について
「介護福祉士ファーストステップ研修」の目標、評価、展開の指針
1 「介護福祉士ファーストステップ研修」の理念
2 領域の到達目標、評価、展開の考え方
3 領域の到達目標、評価、展開

表5 ケア領域における科目の目的<sup>注12</sup>

ケア領域の科目名（時間数）	科目の目的
1. 利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開（16時間）	日常生活や介護サービス場面において、利用者の尊厳が損なわれている状況に気づき、実践を改善することができるようにする。 身体拘束が起こる背景や要因（利用者側・提供側・相互関係）、問題点について理解し、適切な対応をとる視点を確立させる。 利用者の生活全体をとらえる視点を確立させる。
2. 介護職の倫理の実践的理解と展開（16時間）	介護職としての普遍的な価値・倫理を理解させ、自分自身の「介護観」の振り返り、客観視をさせる。 客観的な事実と、自分の認識・価値付けを区別して物事を捉えたうえで、自己の判断を根拠にもとづいて説明することができるようにする。 福祉保健医療を巡る倫理について体系的に理解させる。
3. コミュニケーション技術の応用的な展開（16時間）	自分自身のコミュニケーションの特性を理解させる。 コミュニケーション理論や各種技法を習得させる。 状況に応じた適切なコミュニケーションの方

	法を習得させる
4. ケア場面での気づきと助言 (24 時間)	<p>利用者が何を求めているかについて、利用者の表情やふるまい、言葉や環境などを統合し、理解できるようにする。</p> <p>様々な介護の場面において、望ましいケアの方法を具体的に説明・助言できるようにする。</p>

表 6 連携領域における科目の目的<sup>注13</sup>

連携領域の科目名 (時間数)	科目の目的
5. 家族や地域の支援力の活用と強化 (16 時間)	<p>利用者と家族の双方の想いや葛藤を理解し、適切な対応ができるようにする。利用者や家族の潜在的な希望や意欲を引き出せるようにする。</p> <p>利用者が豊かに生活するうえでの友人・知人・ボランティアなどの大切さ・意義を理解し、活用できるようにする。</p> <p>相談援助技術等、ソーシャルワークの技術を活用した関わりや働きかけを行うことができるようにする。</p>
6. 職種間連携の実践的展開 (16 時間)	<p>チーム (他職種を含む) ケアにおける課題・目標の共有化及び的確な情報の授受が行えるようにする。</p> <p>チームケアにおける介護職の役割と状況に応じてとるべき行動を理解させる。</p>
7. 観察・記録の的確性とチームケアへの展開 (16 時間)	<p>不十分な記録の背景にある、不十分な関わりや不適切な介護過程について指摘できるようにする。</p> <p>記録の意義、機能、方法について、後輩等に指導できるようにする</p>

表 7 運営管理基礎領域における科目の目的<sup>注14</sup>

運営管理基礎領域の科目名 (時間数)	科目の目的
8. チームのまとめ役としてのリーダーシップ (16 時間)	<p>リーダーシップ理論と実践を学び、よりよいチームワークを展開できるようにする。</p> <p>チームのまとめ役としての役割・責任を認識させる。</p>
9. セーフティマネジメント (16 時間)	<p>利用者の安全に配慮し、介護事故や感染症を起こさないための基本的な視点・知識・技術を</p>

	<p>習得させる。</p> <p>利用者の豊かで安全な生活を支えるためセーフティマネジメントのシステムについて学び、リーダーとしての役割を理解させる。</p>
10. 問題解決のための思考法 (16 時間)	<p>問題解決のための着眼点と発想の技法を学び、業務で活用できるようにする。</p> <p>業務改善の取り組みや新しい活動について企画・提案できるようにする。</p> <p>実践をまとめ、的確にプレゼンテーションできるようにする。</p>
11. 介護職の健康・ストレスの管理 (16 時間)	<p>基本的な人事・労務管理の法令・規則を理解させる。</p> <p>心身の健康管理のあり方や職場の体制について学び、職場内で実施できるようにする。</p> <p>自分自身や後輩等に心身面の問題が発生した場合、適切に対応できるようにする。</p>
12. 自職場の分析 (16 時間)	<p>職場改善手法の理論や展開方法について学ばせる。</p> <p>自職場のサービス、組織、マネジメントの課題を把握・分析させる。</p>

## 考察

文献検討の結果から、現行のファーストステップ研修のガイドラインは、介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に十分に対応できておらず、課題抽出された点については、多様な介護職の中核的役割という観点から、チームマネジメント能力を養うための教育内容の拡充、対象者の生活を地域で支えるための実践力の向上、介護過程の実践力の向上、認知症ケアの実践力の向上、介護と医療の連携を踏まえた実践力の向上を踏まえているか、再検討する必要がある。さらに、求められる介護福祉士像 10 項目及び高い倫理の保持との関連性を具体的に検討し、各科目の内容と科目の目的として追記することが重要であると考える。

本研究から、現行のガイドラインについて、表 8、9、10 の通り科目の

目的を補うことが、より求められる介護福祉士像の具現化に繋がると考える。またファーストステップ研修は、講師要件や科目内容は、各都道府県介護福祉士会によって異なる。現行のガイドラインに基づいて、一度も見直されることなく開催されているからこそ、各領域の科目名、科目の目的の改善は急務であるといえよう。介護福祉士は、多様なルートによって介護福祉士取得が可能である。介護福祉士取得者は自らの経験に応じて、専門職としてキャリア形成を考えながら介護福祉実践を行うことになる。時には、身につけている能力に不十分さがある場合、研修受講によって知識と技術を補う必要がある。各科目の内容や目的を具体的にガイドラインで明記することによって、社会の変化にともなう法律や制度に応じた研修開催が課題であると考えられる。

表 8 ケア領域における科目の目的に関して追記及び課題改善の観点<sup>注15</sup>

ケア領域の科目名・時間数	科目の目的	追記及び課題改善の観点
1. 利用者の全人性、尊厳の実践的理解と展開 (16時間)	日常生活や介護サービス場面において、利用者の尊厳が損なわれている状況に気づき、実践を改善することができるようにする。 身体拘束が起こる背景や要因（利用者側・提供側・相互関係）、問題点について理解し、適切な対応をとる視点を確立させる。 利用者の生活全体をとらえる視点を確立させる。	求められる介護福祉士像10項目+高い倫理性の保持に関して、具体的に実践場面から検討し、その改善を実践するPDCAサイクルの視点を身につける。 ICFに基づく利用者の全人的な理解と、介護過程の展開に基づく実践的能力を身につける。
2. 介護職の倫理の実践的理解と展開 (16時間)	介護職としての普遍的な価値・倫理を理解させ、自分自身の「介護観」の振り返り、客観視をさせる。	介護職のグループの中での中核的な役割やリーダーの下で専門職としての役割を發揮することが求められることから、高

	<p>客観的な事実と、自分の認識・価値付けを区別して物事を捉えたうえで、自己の判断を根拠にもとづいて説明できることができるようにする。</p> <p>福祉保健医療を巡る倫理について体系的に理解させる。</p>	<p>い倫理性の保持について、日頃の人間関係の形成やチームで働くための能力の基盤となるコミュニケーション能力を振り返る。さらに、多様な介護人材に対して、日本介護福祉士会倫理綱領に基づく職業倫理を意識した行動について説明し、自ら実践できる能力を身につける。</p>
<p>3. コミュニケーション技術の応用的な展開 (16時間)</p>	<p>自分自身のコミュニケーションの特性を理解させる。</p> <p>コミュニケーション理論や各種技法を習得させる。</p> <p>状況に応じた適切なコミュニケーションの方法を習得させる</p>	<p>介護の対象者との支援関係の構築や情報の共有化等、介護実践に必要なコミュニケーション能力を身につける。</p>
<p>4. ケア場面での気づきと助言 (24時間)</p>	<p>利用者が何を求めているかについて、利用者の表情やふるまい、言葉や環境などを統合し、理解できるようにする。</p> <p>様々な介護の場面において、望ましいケアの方法を具体的に説明・助言できるようにする。</p>	<p>本人の思いや症状などの個性に応じた支援や、地域とのつながり及び家族への支援を含めた認知症ケアの実践力が求められていることから、認知症や障害に伴う心理的側面について、主に医学的に認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解し、説明できる能力を身につける理解する。</p>

表9 連携領域における科目の目的に関して追記及び課題改善の観点<sup>注16</sup>

連携領域の科目名・ 時間数	科目の目的（現行）	追記及び課題改善の観点
5. 家族や地域の支援力の活用と強化（16時間）	<p>利用者と家族の双方の想いや葛藤を理解し、適切な対応ができるようにする。利用者や家族の潜在的な希望や意欲を引き出せるようにする。</p> <p>利用者が豊かに生活するうえでの友人・知人・ボランティアなどの大切さ・意義を理解し、活用できるようにする。</p> <p>相談援助技術等、ソーシャルワークの技術を活用した関わりや働きかけを行うことができるようにする。</p>	<p>認知症ケアでは、認知症に伴う本人の生活への影響のみならず、認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行うことができる。さらに、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解し、他者に説明できる。</p> <p>対象者の生活を地域で支えるために、多様なサービスに対応する力が求められていることから、地域共生社会の考え方と地域包括ケアシステムのしくみを理解し、その実現のための制度や施策を説明できる。</p>
6. 職種間連携の実践的展開（16時間）	<p>チーム（他職種を含む）ケアにおける課題・目標の共有化及び的確な情報の授受が行えるようにする。</p> <p>チームケアにおける介護職の役割と状況に応じてとるべき行動を理解させる。</p>	<p>対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を實踐できる能力を身につける。</p>
7. 観察・記録の的確性とチームケアへの展開（16時間）	<p>不十分な記録の背景にある、不十分な関わりや不適切な介護過程について指摘できるようにする。</p> <p>記録の意義、機能、方法について、後輩等に指</p>	<p>介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応するため、各領域で学んだ知識と技術を活かして的確に記録できる。介護職の中核的役割として、複数</p>



	導できるようにする。	の情報を統合化し、統合化に基づく、アセスメント能力を高めて、記録を活かした実践力を身につける。
--	------------	---

表 10 運営管理基礎領域における科目の目的に関して追記及び課題改善の観点<sup>注17</sup>

運営管理基礎領域の 科目名・時間数	科目の目的（現行）	追記及び課題改善の観点
8. チームのまとめ役としてのリーダーシップ (16時間)	リーダーシップ理論と実践を学び、よりよいチームワークを展開できるようにする。 チームのまとめ役としての役割・責任を認識させる。	介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用などの人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する知識を身につける。
9. セーフティマネジメント (16時間)	利用者の安全に配慮し、介護事故や感染症を起こさないための基本的な視点・知識・技術を習得させる。 利用者の豊かで安全な生活を支えるためセーフティマネジメントのシステムについて学び、リーダーとしての役割を理解させる。	施設・在宅にかかわらず、地域の中で本人が望む生活を送るための支援を実践するために、介護と医療の連携を踏まえ、人体の構造・機能の基礎的な知識や、ライフサイクル各期の特徴等を身につける。
10. 問題解決のための思考法 (16時間)	問題解決のための着眼点と発想の技法を学び、業務で活用できるようにする。 業務改善の取り組みや新しい活動について企画・提案できるようにする。 実践をまとめ、的確に	介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養うために、知識と技術の統合、介護実践の科学的探求する能力を身につける。 介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践

	<p>プレゼンテーションできるようにする。</p>	<p>でき、他者に的確に説明する能力を身につける。</p>
<p>11. 介護職の健康・ストレスの管理 (16 時間)</p>	<p>基本的な人事・労務管理の法令・規則を理解させる。</p> <p>心身の健康管理のあり方や職場の体制について学び、職場内で実施できるようにする。</p> <p>自分自身や後輩等に心身面の問題が発生した場合、適切に対応できるようにする。</p>	<p>人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する能力を身につける。</p>
<p>12. 自職場の分析 (16 時間)</p>	<p>職場改善手法の理論や展開方法について学ばせる。</p> <p>自職場のサービス、組織、マネジメントの課題を把握・分析させる。</p>	<p>介護職のグループの中での中核的な役割やリーダーの下で専門職としての役割を発揮することが求められていることから、リーダーシップやフォロワーシップを含めた、チームマネジメント能力を身につける。</p> <p>組織体のあり方、対人関係のあり方について、リーダーの視点から、人材育成のあり方について理解する。</p> <p>地域共生社会の考え方と地域包括ケアシステムのしくみの視点から、その実現のための制度や施策を踏まえて、地域における生活支援の実践能力の基礎を身につける。</p>

## 結論

本研究から介護福祉士は、多様な介護職の中核的な役割という観点から、現行の不備について、介護福祉士養成課程カリキュラムの改正を踏まえてガイドラインを見直すことが必要であることが明らかとなった。その際、求められている介護福祉士 10 項目に加えて、高い倫理性の保持との関連性を検討することが必要である。さらに、表 8、9、10 に示した通り、具体的な追加及び改善の観点について、現行のガイドラインを見直すことが重要であると考えられる。

また、現行のガイドラインを用いて、各都道府県介護福祉士会のファーストステップ研修の開催計画は、コミュニケーション技術の応用的な展開 (16 時間) の科目について、その 1、その 2 と分けている場合や、15 回目にまとめを加えて、全 15 回程度で各科目及び指定時間を押さえている。

現行のガイドラインは、12 科目について 15 回程度で開催していた。厚生労働省資料を踏まえた場合、今後の全 12 科目の内容や名称に関しても再検討する必要性が示唆された。厚生労働省の報告書等の動向から、「外国人介護従事者に関する知識とコミュニケーション技術 (仮称)」「チームマネジメント能力を養うためのコミュニケーション技術 (仮称)」「介護過程の展開を活用したケア場面と指導方法 (仮称)」「地域包括ケア・地域共生社会に関するケア場面での気づきと助言 (仮称)」「ICT や介護ロボットを活用したケア場面での気づきと助言 (仮称)」等、具体的にガイドラインの明記を検討することが重要と考える。

最後に本研究は論文及び書籍や資料を対象とした文献からの検討であり、主催している各都道府県介護福祉士会や受講者、修了者等に調査していない。また担当講師の要件に関する課題にも触れていない。それらは本研究の限界点であり、今後の課題である。

注

- 注1 厚生労働省『福祉・介護人材の確保に向けた取組について』厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 2018年9月6日  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000363270.pdf>)
- 注2 ファーストステップ研修は、2006年度から厚生労働省の補助による試行事業を経て、2009年度以降実施している。ファーストステップ研修は、図1に記載の通り、小規模な介護職のチームリーダーや、初任者等の指導係の育成を目的とした研修である。事前・事後課題を含めて合計200時間の研修である。
- 注3 日本介護福祉士の示す図3については、全ての介護福祉士が十分に獲得しているかは検証が必要である。その理由として、介護福祉士の資格取得ルートは多様であり、介護過程の展開に基づく根拠ある介護実践に関しては、特に獲得している知識と能力に格差があると、筆者は介護福祉士基本研修の講師を複数回担う中で捉えている。
- 注4 厚生労働省『介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて』第13回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会 2018年2月15日
- 注5 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業 報告書」2019年3月
- 注6 ファーストステップ研修におけるカリキュラムの時間数について、事前・事後課題の時間数が含まれている。
- 注7 ファーストステップ研修は、事前事後課題を含めて全12科目200時間であるが、そのうち100時間を自職場等課題、通信学習で実施することが可能である。
- 注8 筆者作成。
- 注9 出典 厚生労働省『介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて』2017年10月4日報告書に基づき筆者作成。
- 注10 出典 『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン～研修の企画、展開の指針』（2009），社会福祉法人全国社会福祉協議会を筆者作成。
- 注11 同前。
- 注12 出典 『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン～研修の企画、展開の指針』（2009），社会福祉法人全国社会福祉協議会を筆者が一部改変して作成。
- 注13 同前。
- 注14 同前。

注 15 出典 『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修ガイドライン～研修の企画、展開の指針』（2009）、社会福祉法人全国社会福祉協議会を筆者加筆して作成。

注 16 同前。

注 17 同前。

#### 引用参考文献

- 1) 厚生労働省 『介護福祉士及び社会福祉士制度の在り方に関する意見』 社会保障審議会福祉部会 2006年12月12日  
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/12/dl/s1212-4b01.pdf>)
- 2) 社会福祉法人全国社会福祉協議会 (2009年9月) 『介護職員のキャリア形成支援の制度化に向けた提案 小規模チームのリーダー養成等を目的とした「介護福祉士ファーストステップ研修」』  
([http://www.shakyo.or.jp/news/081113\\_2.pdf](http://www.shakyo.or.jp/news/081113_2.pdf))
- 3) 社会福祉法人全国社会福祉協議会 (年3月) 『小規模チームのリーダー養成を目的とした介護福祉士ファーストステップ研修 ガイドライン～研修の企画、展開の指針』  
([http://www.shakyo.or.jp/research/05\\_pdf/final\\_1ststep.pdf](http://www.shakyo.or.jp/research/05_pdf/final_1ststep.pdf))
- 4) 中司登志美 (2009) 「介護福祉士現任者教育の抱える課題 介護福祉士ファーストステップ研修 (広島県) をふまえて」 『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』 4巻1号, 1-8
- 5) 岡田史 (2011) 「介護福祉専門職育成における専門職団体の役割と課題 - 新潟県介護福祉士会会員の研修ニーズに関する意識調査から」 『新潟医療福祉学会誌』 10巻2号, 4-9
- 6) 厚生労働省 『福祉人材確保対策検討会における議論の取りまとめ』 第1回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2014年10月27日資料3  
([http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000062880.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000062880.pdf))
- 7) 厚生労働省 『2025年に向けた介護人材にかかる需給推計(確定値)について』 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 2015年6月24日  
([https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/270624houdou.pdf\\_2.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/270624houdou.pdf_2.pdf))
- 8) 厚生労働省 『介護人材の機能に応じた育成のあり方について』 第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2016年11月14日資料  
(<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan>

- Sanjikanshitsu\_Shakaihoshoutantou/0000142796.pdf)
- 9) 厚生労働省 『介護福祉士の養成カリキュラム等について』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2016年11月14日参考資料1  
([https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000142797.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000142797.pdf))
  - 10) 厚生労働省 『介護人材における介護福祉士の役割に係る意見書』第7回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 平成28年11月14日参考資料2 (公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也)  
([https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000142798.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000142798.pdf))
  - 11) 公益社団法人日本介護福祉士会 (2016) 『介護福祉士基本研修テキスト』中央法規
  - 12) 厚生労働省 『求められる役割に適切に対応できる介護福祉士の育成方策』第11回社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2017年9月26日石本委員提出資料 (公益社団法人日本介護福祉士会 会長 石本淳也委員)  
([https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000178750.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000178750.pdf))
  - 13) 野田由佳里・太田貞司・及川ゆりこ・鈴木俊文 (2017) 「ファーストステップ研修修了者追跡調査による研修効果及び介護職チームのリーダー・中堅介護福祉士の役割に関する研究」『聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要』15巻, 81-95
  - 14) 太田貞司 (2017) 「介護職の職能集団の形成とチームリーダー」『京都女子大学生活福祉学科紀要』12巻, 15-27
  - 15) 厚生労働省 『介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて』社会保障審議会福祉部会 福祉人材確保専門委員会 2017年10月4日報告書  
([https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf))
  - 16) 牛田篤 (2018) 「特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関する研究 - ファーストステップ研修と求められる介護福祉士像 12項目の意識調査から - 」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』13巻1号, 39-46
  - 17) 厚生労働省 『福祉・介護人材の確保に向けた取組について』厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課福祉人材確保対策室 2018年9月6日  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/000363270.pdf>)

- 18) 厚生労働省『介護福祉士養成課程における教育内容の見直しについて』第13回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会 2018年2月15日  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000345245.pdf>)
- 19) 認定介護福祉士認証・認定機構『認定介護福祉士 研修認証基準』  
([http://www.nintei-kaishi.or.jp/files/-training/-kenshuninshokijun\\_-20190326.-pdf](http://www.nintei-kaishi.or.jp/files/-training/-kenshuninshokijun_-20190326.-pdf))
- 20) 牛田篤 (2019)「介護福祉士ファーストステップ研修の受講意識と課題抽出に関する研究 - 介護福祉士を対象とした共起ネットワーク分析から -」『福祉健康学科研究 福山平成大学健康福祉学部紀要』14巻1号, 13-20
- 21) 村上逸人 (2019)「ファーストステップ研修参加者の研修に関する意識」『同朋大学論叢』第104号, 119-131
- 22) 厚生労働省『介護分野の現状等について』2019年3月18日報告書  
([https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000179735.pdf))
- 23) 牛田篤 (2020)「介護福祉士の研修型人材育成に関する課題と今後の改善策の検討」『同朋大学論叢』105号, 21-3725)
- 24) 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業 報告書」2019年3月  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000525759.pdf>)
- 25) 牛田篤 (2021)『介護福祉士ファーストステップ研修に関する課題抽出とその改善に向けた視座』一粒書房

『同朋福祉』に関する内規』により「研究ノート」として査読済み

(本学准教授：介護概論)